

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

August  
2019 8

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2019年8月1日発行(毎月一回発行)第740号

● 出会い・本・人

十字架の矢の痛手 岩崎 謙

● 特集「キリスト教と平和」を学び直すには

この三冊！ 比企敦子

● 本・批評と紹介

大野恵正著 旧約聖書入門3 大島 力

J・D・G・ダン著／浅野淳博訳 使徒パウロの神学 山田耕太

小友 聡著 コヘレトの言葉を読もう 松本敏之

榎本てる子著 愛し、愛される中で 後宮敬爾

タイム・ステッド著／柳田敏洋、伊藤由里訳

マインドフルネスとキリスト教の霊性 阿部仲麻呂

長谷川勝政著 英学者本田増次郎の生涯 西口 忠

鎌野善三著 3分間のグッドニュース「詩歌」 門叶国泰

水草修治著 失われた歴史から 大坂太郎

金 承哲著 遠藤周作と探偵小説 古橋昌尚

B・ウエブミッシェル著／伊藤 悟訳

キリスト的ジェスチャー 小泉 健

B・F・バックストン著 バックストン著作集第3巻 広谷和文

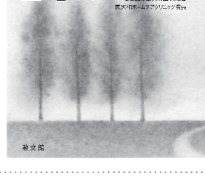
片岡伸光著／大嶋重徳、小泉 健解説 主の前に静まる 太田和功

既刊案内

書店案内

人生100年時代に!

ひとりでも  
最後まで  
自宅で



ご本人、ご家族、すべての支援者の方々に知っておいて頂きたい、高齢者のひとり暮らしの心構えと、地域包括ケアシステムを利用した暮らし方のコツを在宅医療のプロフェッショナルがやさしく指南!

●B6判・180頁・本体1,300円

ひとりでも最後まで自宅で 森清著

オンデマンド復刊



ニカイア信条講解 オンデマンド版

キリスト教の精髓

関川泰寛 著

新約聖書から始めて古代における信条の成立を歴史的・神学的にたどり、解説する。

●B6判・224頁・本体3,800円

オンデマンド復刊



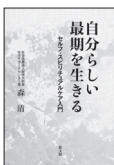
新約聖書概説 オンデマンド版

原口尚彰 著

新約聖書と新約聖書学への全体的展望を得るために、各文書の文学的特色、神学的特色、内容の概観、時代史的背景、福音書研究法などを一貫した視点で分析し、解釈を提供する。

●A5判・190頁・本体2,700円

好評既刊



自分らしい最期を生きる セルフ・スピリチュアルケア入門

森清著

終末期に抱える死の不安。残された時間を穏やかなものにするための、心の痛みを見つめ直し、人生を振り返る心の整理術を提案。

●B6判・180頁・本体1,300円

忽ち重版!



ただ一つの慰め 吉田隆著

聖書が語る福音の真髄を、美しくしかも力強い言葉で語る『ハイデルベルク信仰問答』。その訳者による最も信頼できる講解。人間の魂の奥深くに訴える信仰の確かな羅針盤。教会での読書会や受洗準備のテキストに最適。

●四六判・320頁・本体2,300円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549 (出版部)  
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

shop教文館



## 十字架の矢の痛手

岩崎 謙

大学時代に谷隆一郎先生（九州大学名誉教授）を通して、ニュッサのグレゴリウス（三三五～三九四年頃）と出会った。東方教父の時代、哲学と神学とは分離していない。神の御前で良く生きることをお願い、神理解を深めようとした教父たちの篤い思いが、三位一体論等の教理へと結晶化していったことを学んだ。

谷先生は、卒業後もご自分の著書が出ると、贈ってくださった。その中に先生が共訳された『ニュッサのグレゴリウス 雅歌講話』（一九九一年、新世社）がある。長らく積ん読状態だったが、わたしは神港教会の夕拝で、二〇一六年一月より雅歌の連続講解説教を行ったときに用い、字句の意味を尊ぶ改革派的解釈と違うとはいえ、本書に魅了された。雅歌の主題は、文字通りの意味では男女の愛である。『雅歌講話』は、花婿のキリストが花嫁の教会を愛する愛の比喩として、男女の愛を読み解いている。

一例として、「わたしは恋に病んでいます」（新共同訳、雅歌二章五節）を紹介する。東方教父が用いた七十人訳ギリシア語聖書（ $\times\times$ ）では、病よりも傷を意味するギリシア語が用いられている。『雅歌講話』では、「わたしは愛の痛手を受けている」と訳され、射手が放つ矢の傷跡が連想されている。愛である神が「独り子である神を……救われる人びとに向かって射放」ち、キリスト者は「痛手を受けた愛の甘美な矢を自分の中に認めるならば、その痛手を誇りに思う」（『雅歌講話』一〇五頁）。本書を通して、自分の心に十字架の矢の痛手が刻まれていることに気づかされた。

わたしは、仕事で本を読んでも、恥ずかしながら、趣味は読書ですと語れるほどの本好きではない。そんなわたしが手にする本は、自分で選択したというより、人との出会いの中で示されたものばかりである。だからこそ、良き出会いに恵まれたことに感謝している。



# 「キリスト教と平和」を学び直すには ▼この三冊！

## 比企敦子

(ひき・あつこ) 日本キリスト教協議会(NCC)教育部総主事

私たちがキリスト教や平和を学び直すためには、教会と国家が辿った負の歴史を避けては通れません。加えて日本社会には、虐待、性暴力、ヘイトスピーチ、格差、原発、改憲、基地問題など平和に逆行する人権侵害が溢れています。核廃絶を表明せず、改憲を急ぐ政府に危機感を覚えます。市民としてのキリスト者の責任や教会の姿勢も問われています。

戦争経験者であろうとなかろうと、免除されない負債、それが戦争責任だ

と思います。隣国からの訴えに、日本が誠実に応えているとは到底言えませんが。

二〇〇一年『新編・歴史教科書』が検定を通過後、日本軍「慰安」婦や南京大虐殺などの記述が制限され、アジアの解放をめざした自衛戦争であったとする教科書も採択されています。歴史修正主義が横行し、「日本会議」という支持団体をもつ現政権は、道徳を教化して愛国心教育を推進しています。国旗・国歌法制化以降、職務命令と

して教職員に強制されている「日の丸・君が代」に対し、ILO(国際労働機関)とユネスコは三月、日本政府に是正勧告を出しました。強制され続けた職務命令は、世界において否定されました。日本のキリスト教諸教派は、明治期から教育をめぐって国家との対立があったものの、政府や財界との繋がりから結果的に戦争協力への道を歩みました。

以下の三冊は、ドイツ、アジア、日本から発信され、いずれも戦争責任に言及しています。天皇制の下での信教の自由、平和や人権を求め続ける確かなウイジョンと勇気が与えられる書籍です。

**R・V・ヴァイツェッカー『荒れ野の四十年』**

一九八五年五月八日、ドイツ連邦議会においてなされた有名な追悼演説です。中高年の方にとっては既読の書でしょう。大戦が終結した五月八日人を人々が嘗めた辛酸を「心に刻む」日とし、

ドイツ国民だけでなく他民族に向けても語られています。キリスト教信仰に立つ真摯な罪責告白、大統領として平和をつくり出す責任と使命が力強く語られています。岩波ブックレットです。で学生にもお勧めです。ホロコーストで命を奪われた六百万人のユダヤ人、ソ連やポーランド人、シンティ・ロマ、同性愛者、精神病患者など、迫害の事態と背景も十分理解できます。

人々の熱烈な支持を得て突き進んだヒトラーとヒトラーを支持したキリスト者、あるいはヒトラーを過小評価して油断した教会の苦悩なども分かります。東側諸国との対立や分断の解消、緊張緩和と平和を模索する姿に心からの敬意を覚えます。

ドイツも旧日本軍も共に無条件降伏でしたし、犯罪的な指導者たちが掲げた大義による戦争でした。敗戦国として降伏した両国でありながら、戦争責

任をめぐる隔たりは顕著で、日本ではA級戦犯容疑者が後に首相になりました。ヴァイツェッカーは、深い悔い改めに立ち、語ります。「問題は過去を克服することではありません。さようなことができるわけではありません。後になつて過去を変えたり、起こらなかつたことにするわけにはまいません。しかし過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも「盲目」となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」(一六頁)

巻末には村上伸牧師による、告白教会、バルメン宣言、ボンヘッファー、シュトゥトガルト、ニーメラーの各罪責告白に関する、示唆に富む解説があります。

**VAWWINEET** ジャパン編『Q&A 女性国際戦犯法廷』

本書を読むと、日本軍元「慰安」婦問題が解決できないままである理由が

よく理解できます。戦争犯罪が裁かれず、国家による正式な謝罪もなく、歪められた歴史教育のままでは、隣国との軋轢や溝はなくなりません。

本書は、一九九七年発足の「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク(VAWWINET) ジャパン) 編集による裁判の記録集です。組織を立ち上げ、国際会議や実行委員会を経て、三年後の二〇〇〇年十二月、「女性国際戦犯法廷」が東京で開かれました。主催した実行委員会の共同代表は、インダイ・サホールさん(女性の人權アジアセンター代表)、松井やよりさん(VAWWINET) ジャパン代表)、尹貞玉さん(韓国挺身隊問題対策協議会共同代表)、事務局長は東海寺路得子さん。

世界各国から判事、主席検事、各国検事団、書記官、被害者証人、専門家証人、加害者証人等が選任され模擬裁判が実施されました。

民衆法廷開催の発端は二十世紀最大規模の戦時性暴力と言われた「元「慰安」婦の方々からの訴えでした。この性暴力の事実を歴史の闇の中に埋もれさせてはならないと、尹貞玉梨花女子大教授（当時）が調査を開始し、その結果を一九九〇年、新聞に連載しました。

韓国挺身隊問題対策協議会結成後、韓国に続き、朝鮮民主主義人民共和国、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、オランダなどで被害女性たちが相次いで名乗り出ました。元「慰安」婦たちは日本政府に対し、真相究明、謝罪と賠償、加害者処罰、教科書への記述、追悼事業などを求めました。来日して声を挙げた金学順さんの訴えに応えた女性運動でした。

民衆法廷では、国家の戦争犯罪を直接裁くことはできませんが、ベトナムでの米国の戦争犯罪を裁いた「ラッセル法廷」を参考にし、加害国と被害国の

女性が連携した国際法廷でした。本書は、私たちが質問したいと思う事柄を二十五の「Q&A形式」で丁寧に解説します。Q一 なぜ、五十年以上も前の「慰安婦」制度を裁くことにしたのですか？ Q十六 昭和天皇はなぜ「有罪」になったのですか？ 等。

刑事裁判として、被告人を起訴する証拠が必要でしたが、日本軍兵士二名による以下の証言が決定的でした。「強かんは日常的に行われていたが上官は黙認していた。それは民族的な蔑視観に基づいていた。」（四六頁）

翌年ハーグで出された英文の判決文は、昭和天皇を含む十人の被告人の有罪、日本政府は戦時中と戦後の不法行為に賠償責任があるというものでした。

この裁判は、各国からの判事団、法律顧問による連帯と努力の結晶であり、深く共感できます。更に、ハーグ判決をめぐり、世界の大手メディアと日本語

英字新聞が「天皇有罪」と大きく報じたのに対し、日本メディアの「情報鎮国」の危険性も明らかになりました。

一月三十日のNHKE TVシリーズ「問われる戦時性暴力」の放映内容「改ざん」をめぐり、VAWW-NETジャパンと松井やよりさんがNHKを提訴したことは既に知られていますが、NHK内部の問題や政府の介入が明らかです。詳細は以下をご参照ください。〈慰安婦問題と公共性〉、「創発」戦後和解と市民的公共性」所収、東海林路得子著、東京基督教大学・共立基督教研究所発行、2007年）

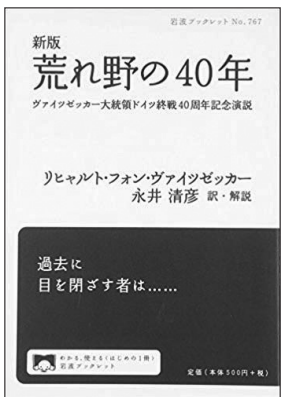
### 『NCC教育部歴史編纂委員会編「教会教育の歩み」』

本書はNCC教育部の前身である日本日曜学校（NSSA）設立百周年となった二〇〇七年に発行され、教会教育の歴史を日曜学校の歩みの資料と共に分析し論考したものです。

「写真でたどる教会教育の歩み」に始まり、一八六四年〜二〇〇六年までを大きく区分し、総括と共に詳細な年表が掲載されています。キリシタン禁制の高札撤去後、諸教会や日曜学校が歴史の流れにどう対応してきたのかがよくわかります。輝かしい日曜学校運

動、宗教教育の展開、戦争と日曜学校、教会学校としての再出発、キリスト教教育の課題と展望など、牧師、研究者、教育主事など十二名が執筆しています。戦時下の教案誌や賛美歌、戦後の各教派の教案、アイヌ民族・沖縄・マインリテイの視点に立つ人権教育など、

教会教育を多角的に捉えています。同時発行のDVDと共に神学教育にも適しています。巻末の声明「設立百周年を迎えるにあたって、過去の罪責の悔い改めと、新しい時代への決意」は、キリスト教や平和を考える上での信仰告白でもあります。ぜひ一読ください。



### 『荒れ野の40年——ヴァイツェッカー大統領ドイツ終戦後40周年記念演説』

R.V. ヴァイツェッカー：著  
永井清彦：訳  
岩波書店  
2009年刊  
A5判63頁  
520円（税別）



### 『Q&A 女性国際戦犯法廷——「慰安婦」制度をどう裁いたか』

Vaww-Net ジャパン：編  
明石書店  
2002年刊  
A5判96頁  
800円（税別）  
（現在品切：古書にて流通）

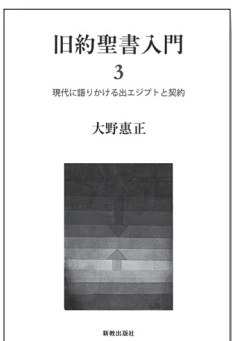


### 『教会教育の歩み——日曜学校から始まるキリスト教教育史』

NCC教育部  
歴史編纂委員会：編  
教文館  
2007年刊  
B5判264頁  
2000円（税別）

難解な書を読むための  
確かな道標

〈評者〉大島 力



旧約聖書入門3  
現代に語りかける出エジプトと契約  
大野恵正著

大野恵正先生の『旧約聖書入門』の三巻目が出版されました。一巻目には「現代に語りかける原初の物語」という副題が、二巻目には「現代に語りかける父祖たちの物語」という副題が付され、創世記全体が扱われています。そのいずれも多くの人々の関心を引くテキストであり、それを旧約聖書学的に、また現代との関わりにおいて大変に興味深く解説しておられます。とりわけ、ヘブライ語の「ペレー」という言葉を重視して、いかに旧約聖書が現代人にとって「驚くべきこと」(ペレー)を伝えるものであるかを説得的に述べておられます。

今回の三巻目でも、そのことは一貫しています。出エジプトという出来事は、まさに古代イスラエルの人々にとって「驚くべきこと」であり、いわばその衝撃の大きさが、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記という書物にも響

す。そしてなによりもその神蹟現が神と人間との人格的關係を成立させていることに注目しています。そのことは、続いて記されている「契約の書」(二〇・二二―二三・一九)においても、「神聖法集」(レビ記一七―二六章)においても、さらには「申命記法」(申命記二―二六章)においても同様です。神の恵みの出来事、それに基づく契約、さらにその契約に基づく「法」は緊密で有機的な関係を持ち、旧約聖書の出エジプト記から申命記にいたる内容をなしているのです。

他方、本書の特徴は四つの書物の仕組みと構成が提示され、その中心的内容が明確化されていることです。出エジプト記はなんといっても一九章一節から二四章一節の「シナイでの神蹟現・十戒・契約の書・契約物語」が中心であり、本書の副題にそのことが示されています。続くレビ記には様々な祭儀規定が記されていますが、中心には

き渡っています。特に出エジプト記の前半は主に物語形式をとっており、その中でイスラエルの原点と言うべきストーリーが展開しています。モーセの召命の記事(三章)で明かされる神の名前に関しては多くの議論がなされていますが、大野先生は「わたしは居るのだ。私は『居る』というものだ」イスラエル人にこういうが良い。「わたしは居る」という方が、わたしをあなたがたのもとに遣わしたのだ」(一四節)と訳しています。これは旧約聖書の神を、存在論的に解するよりも実存的に解した方が事柄に即しているという判断からきていますが、適切な理解であると思います。また、十戒(二〇章)に関しても、シナイでの神蹟現を最大限に重要視して、二節を神の自己顕現語と理解し、そこに示されている神の恩恵の出来事こそが、十の言葉に示されている戒めの根拠であることが明確に指摘されています。

「大贖罪日の儀礼」が位置づけられ、「神の前に立つ人間がいかに深い罪性を負っているか、そしてそれを贖い、それから引き離されなければ人間は、生きることができない」という深いモチベーションがその背後にあると指摘されています。また民数記の前半(一―二五章)は荒野で死ぬ反逆の旧世代のこと、後半(二六―三六章)は希望の新世界の代を扱い、モーセは旧世代の罪に連座し、ヨシユアが後継者として約束を担う者となります。最後に申命記は「申命記法」(二―二六章)を中心とし、過去のものではなく、現に今ある者たちに向かつて掟と法が語られています。このような各書の構成と中心テーマの提示は、煩瑣で読みにくいと言われる「律法の書」を私たちが読み進める確かな道標であると言えます。

(おしま・ちから)青山学院宗教部長、経済学部教授  
(小B6判・三三八頁・本体一九〇〇円+税・新教出版社)

「パウロ研究の新しい視点」の  
集大成

〈評者〉 山田耕太



使徒パウロの神学  
ジエームズ・D・G・ダン著  
浅野淳博訳

本書はイギリスを代表する新約学者ジエームズ・D・G・ダン教授が「新しい視点」(New Perspective on Paul)から十九世紀以来のパウロ神学の議論を総決算したものである。千頁(原著八百頁)近い大著を著した著者をはじめ、日本語で読めるように翻訳を貫徹した関西学院大学浅野淳博教授と出版した教文館の偉業に、惜しめない賛辞を贈る。

ダン教授は、E・P・サンダース教授の『パウロとパレスティナ・ユダヤ教』(翻訳中と聞く)の「契約維持のための律法体制」(Covenantal Nomism)の本書訳語)に啓発され「律法の行い」(ガラ二・一六)を社会学的視点からユダヤ人の印「割礼」「食物規定」「安息日」の遵守に絞って解釈することから始めた(詳しくは、拙訳『新約学の新しい視点』参照)。その後、ローマ書・ガラテヤ書他の注解書をはじめ数々の著作で展開してきた議論を本書にまとめ上げた。

ウロ神学への諸言)に続く、第1部 神と人類(第2章 神、第3章 人類)、第2部 告発された人間(第4章 アダム、第5章 罪と死、第6章 律法)がそれにあたる。

中間層は、パウロ神学の支点的イエスの物語とパウロの物語で、第3部 イエス・キリストの福音(第7章 福音、第8章 人としてのイエス、第9章 十字架のキリスト、第10章 復活の主、第11章 知恵としてのキリストと先在性、第12章 再臨の待望)と第4部 救いの開始(第13章 転換点、第14章 信仰による義認、第15章 キリストへの参与、第16章 賜物としての御霊、第17章 バプテスマ)と第5部 救いのプロセス(第18章 終末的緊張、第19章 イスラエル)で語られる。

最上層は、パウロの書簡群を通してパウロが行った諸教会との対話の段階である。第6部 教会(第20章 キリスト

サンダースとダンの「新しい視点」は英語圏で風靡している。ルター以来の「律法」と「福音」という不連続性由来し、ユダヤ教を「律法主義」とする誤解を解いて、ユダヤ教の律法も「契約」に基づくものであり、宗教間対話の時代にユダヤ教とキリスト教の連続性と対話を前提にして、パウロ神学を根底から解釈し直すことを試みてきた。

本書はローマ書の議論を基本にし、パウロ書簡群の議論で補って、パウロ神学を展開していく。ダン教授はイギリス人学者に典型的に見られるように、パウロの真筆として七書(一テサロニケ書、ガラテヤ書、一・二コリント書、フィリピ書、フィレモン書、ローマ書)に、二テサロニケ書とコロサイ書を加える。

本書ではパウロ神学は三層構造を成す。最下層は、神と創造に関する物語とイスラエルの物語で、序(第1章)の体、第21章 職務と権威、第22章 主の晩餐)と第7部 キリスト者の生き様(第23章 動機となる原則、第24章 倫理の実践)でそれを叙述し、エピローグ(第25章 パウロ神学への結語)で結ぶ。本書は歯切れの良い文体で訳され大変読みやすい。パウロ神学への興味深い洞察と刺激に富む議論が、パノラマのように展開する本書は必読書である。

私は三十七年前にバレット教授の後任として、ダン教授がダラム大学に着任した翌年に開いた最初の大学院ゼミに加わった。「新しい視点」の端緒に触れて、ダン教授の許可を得て教授就任講演と共にその論文を翻訳させて頂いた。その時点から本書に至るまでの議論の展開は極めて感慨深い!

(やまだ・こうた 敬和学園大学長)

(A5判・九七六頁・本体六三〇〇円+税・教文館)

教会、家庭、幼稚園などで役立つ  
子どものための祈りのことば集

かみさま、  
きいて!

こどものいのり



子どものための祈りのことばをまとめた祈りの例示集。クリスマスやイースターなど礼拝の祈り、母の日、運動会など行事の祈り、朝、食事の祈りなど毎日の祈りを計52テーマ収録。祈りの参考にどうぞ!



主よ、用いてください  
召命から献身へ

大嶋重徳・陣内大蔵 他  
牧師、司祭、プラーザー・シスターはどのような神の声を聞き、いかにしてその示す道に従ったのか。献身者33名の召命の証しを収録。

四八判・154頁・1620円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格8%税込》  
<http://bp-uccj.jp>

## コヘレトのメッセージを 明らかにする見事な謎解き

〈評者〉**松本敏之**

コヘレトの言葉を読もう

「生きよ」と呼びかける書



小友 聡

コヘレトの言葉を読もう

「生きよ」と呼びかける書

小友 聡著

「コヘレトの言葉」にはすてきな言葉が散在するが、全体

としては難解、あるいは支離滅裂で意味が通らない。大方の人はそういう印象を持っているのではないか。筆者もそうであった。筆者はこれまで三〇年以上牧師を務めてきたが、説教でも、有名な三章冒頭の「何事にも時がある」の部分、五章一節の「神は天にいまし、あなたは地上にいる」、一一章一節の「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい」、一三章一節の「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」などを、元来の文脈とは関係なく断片的に取り上げた以外に、記憶にない。

しかし本書を読んで、著者の見事な謎解きのおかげで、「コヘレトの言葉」の全体像、総合的なメッセージがわかるようになり、「コヘレトで説教できる、連続して説教してみたい」と思うようになった。それが筆者にとって何よりの

収穫である。

あとがきを読むと、著者が若い頃から運命的な形でコヘレト研究に導かれていったことがわかる（すべて定められた時がある！）。著者はこう述べる。「自分は神学生の頃、旧約聖書が苦手であったにもかかわらず、これがわからなければ牧師になっても致命的だと思って旧約聖書を専攻した。その中でも一番難解な『コヘレト』がわかれば、他もわかるだろうと思ひ、これを卒論、修論のテーマとして選んだ。その頃から『コヘレト』は『黙示』と何らかの関係があるのではないかという問題意識をもっていたが、誰もどの文献もその手がかりを与えてくれなかった。膨大な時間を費やし、試行錯誤の末に発見したのが、コヘレト八章とダニエル書二章の関係である。」

ダニエル書二章は、知者ダニエルがネブカドネツアル王

の見た夢を「解釈」し、神の秘密を見事に説明する部分である。著者は、その部分とコヘレト八章に、「言葉の解釈」と「何事が起こるかを知る」という共通の言葉が用いられているのを「発見」し、コヘレトがダニエル書に見られる黙示思想への対論として書かれたという新しい読み方を展開する。それを示した八章は推理小説のようであり、読んでいてわくわくする。黙示思想とは「もうすぐ終わりの時が来る」という強烈な切迫感において厳しい試練を耐え抜こうというものだが、それが行き過ぎると、今の時を十分に生き切ることができなくなってしまう。ダニエル書が成立したのもそうした時代であったが、コヘレトはそれに反して、「今、生きている時を全力で生きよ」と呼びかけているという。そのようなことから、コヘレトの言葉が書かれたのは、通説では紀元前五世紀から二世紀と言われているが、著者はダニエル書と同時期の紀元前二世紀半ほどとする。

最初に説教のことに触れたが、主イエスの「空の鳥、野の花」の言葉（マタイ六・二五以下）や、パウロの「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」（第二コリント六・二）、あるいは「大食漢で大酒飲みだ」（マタイ一・二九）と言われた主イエスの姿に結び付けて説教すると、コヘレトのメッセー

ジと同じ方向で（反面教師としてではなく）語れると思った。

この書物の大事な特徴の一つは、二〇一八年二月に発行された聖書協会共同訳のテキストを新共同訳と対比して掲載していることである。読み比べてみると、驚くほど違ってきており、新鮮である。新共同訳で厭世的に感じられた言葉（「空しい」など）や、女性差別的な誤訳（七・二八）なども、随分是正されている。著者は、聖書協会共同訳の編集委員であり、詩文学の原語翻訳担当であったので、当然コヘレトの言葉の翻訳にも関わられたことであろう。この書物を読んで、新しい聖書協会共同訳を読んでみようと、思う人も増えるのではないか。その意味でもまさにタイムリーな出版である（何事にも時がある！）。

この書物は『信徒の友』二〇一七年度に連載された「現代に語る『コヘレトの言葉』」がもとになっていること、拙著『マタイ福音書を読もう』から始まった「読もう」シリーズの第五弾として出版されたものであることを付記しておきたい。

（まつもと・としゆき 日本基督教団鹿兒島加治屋町教会牧師）  
（四六判・一三六頁・本体一四〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



文字通りの「実践神学」者が  
神の愛を求めて生きた記録

〈評者〉後宮敬爾



愛し、愛される中で  
出会いを生きたる神学  
榎本てる子

今、入院中である。本書の書評を依頼されたのは入院を決心した時だったので、一度はそれを理由に断ろうかと思っただが、暫し思い巡らした後、むしろそれを理由に本書を読んでみようと思ひ直した。なぜなら、著者は痛みと共に生きた人だったからだ。弱さや痛みを負いながら本書を読むという経験をする事、それがもっとも良い紹介になると考えたのだ。

著者、榎本てる子は二〇一八年五月、五五歳の若さでありにも早い死を迎えた。しかしその短い時を、自らの痛みと共に歩み、そして痛む人と共に歩んだのだ。父榎本保郎の死を通して、彼女は大きな痛みを負うこととなった。それはキリスト教を信じる事の痛みでもあり、祈ることの痛みでもあった。けれども、家族との葛藤、信仰の葛藤、何よりも自分を受け入れることへの葛藤を、痛む他者

と共に歩む道への苦闘に変えてその生涯を生き続けたのだ。本書は、著者が死に向かう過程で著者と深い関わりのあった人たちによって編纂された。

第1部には、「人としての牧師——市民社会の課題を担って」「牧会カウンセリングの現場における『聴く』ことと癒し」「HIVカウンセリングの現場から——『ステイグマ』からの解放を目指して」「自死念慮者に対する牧会ケア」という著者の論文が4本掲載されている。これらの題から想像されることを凌駕してその内容は既成の神学、神学教育、牧会、教会への鋭い警鐘を内包するものである。

論文の第1編は、著者が中心になり展開したバザールカフェプロジェクトというキリスト教と市民との共同の業についての詳細な報告と省察である。第2編は著者自身の半生をかけたカウンセリングについての考察である。第3編

とり孤独と向き合っている人に手にしていただきたい」とあるが、まったく同感である。  
著者は「できない自分を愛せない」という痛みを抱えて生涯を歩んできた。そして同じように「痛みの故に自分を愛せない」人と出会い、「愛し、愛される」という関係性の中を生き続けて、神との関係を語り続けた。希有な文字通りの「実践神学」者であった。その遺してくれた言葉は確かに痛みで眠れぬ夜を過ごす私に『いのちの水』となった。ご一読をお勧めする。著者の「Celebration of life」と銘打った葬儀には、神が虹を備えてくださったそうだ。無案件の愛への探求の生涯を神が祝してくださったのだらう。

(うしろく・よしや)日本基督教団霊南坂教会主任牧師  
(A5判・二〇八頁・本体一八〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

は著者が日本社会において草分け的存在であった働きからの優れた論考である。第4編は、生きづらい社会の中で、自ら無力であることを自覚しつつ、それでもなお、痛む魂と共にあるとする著者の苦悩と試行の報告である。  
第2部には関西学院大学神学部の礼拝で行ったメッセージが掲載されている。二〇一七年七月五日、息切れしながら予定時間を超えて語られたこのメッセージは、著者の人生の証でもある。その中で追い続けてきた無条件に愛す神への省察であり、重厚な説教である。  
第3部は、「徐々にできなくなる自分の痛み」と向き合

新刊

宗教史学論叢 23

媒介物の宗教史  
【下巻】

津曲 真一・細田 あや子 編

宗教史学論叢23  
**媒介物の宗教史**  
【下巻】

津曲真一・細田あや子 編  
●A5判上製 本体4,000円+税

藤原達也 仏像の誕生／日沖直子 出口王仁三郎の「耀盤」— 霊術から芸術へ／津城寛文 和歌の宗教学／三津間康幸 古代メソポタミアの占星術における「媒介するモノ」／葛西賢太 食物を通して身体と出会う—「食べる」ことの意味を瞑想する／高橋直子 読者と〈あの世〉を媒介する— 婦人雑誌『主婦之友』を事例として／木村武史 ロボット・AIと宗教についての序論的考察／他6篇を収録。

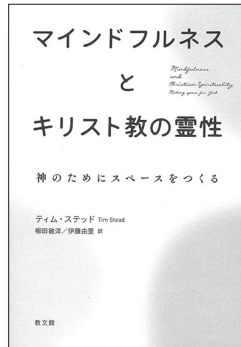
ISBN978-4-86376-073-8

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

キリスト者の誤解を解き  
深い理解に導く

〈評者〉阿部仲麻呂



マインドフルネスとキリスト教の霊性  
神のためにスペースをつくる  
ティム・ステッド著  
柳田敏洋、伊藤由里訳

近年の仏教におけるマインドフルネスの瞑想技法は決して新たに編み出されたものではなく、むしろ仏教古来の方法を復興させたものである。言わば、温故知新の発想で広まったのがマインドフルネスの技法である。①「止」(サマタ)つまり留まること、心を鎮めること、集中することは次第に②「観」(ヴィパッサナー)つまり洞察、物事を深く見つめることへと洗練される。「観」は慈愛のまなざしであるとともに、相手をつつみこんで安心させる行為として実践的で圧倒的な革新をもたらす。心の静止と躍動の連続性と応性が人間の全身を根源的にゆさぶり、慈愛の人へと脱底させつつ徹底的な回心をもたらす。

ところでマインドフルネスを別の言葉で説明すれば「じゅうぶんに満ち足りた心で生きる」と言える。この意味は、あらゆる人が望む生き方を示唆する。現在、マインド

フルネスが流行している背景には「じゅうぶんに満ち足りた心で生きる」と望む人が案外と多いという状況がある。ということは、常に困苦欠乏にさいなまれて痛みを実感するのが現代人の現実であることも見えてくる。多くの人は少しでも安心して自分らしく生きてみたいと望むが、実際はあらゆる意味で不足した状態から抜け出せずにもがく。

それにしても、てっとり早く利益だけを手に入れようとする現代人が作り出したマニュアルが流行している。しかし原点に立ち戻る必要がある。仏教へ。そして、その原点の長所から学んで真の霊的成熟を目指すキリスト者たちの努力も始まっている。その代表的な動きが本書で示された。えてしてキリスト者はマインドフルネスを誤解し、毛嫌いする。二つの誤解がある。第一として、キリスト教の霊性には伝統があるという自信。第二として、マインドフル

ネスは信仰をもたぬ人のための運動に過ぎないという軽蔑。第一の過信には①謙虚さの取り戻しを、第二の軽蔑には②相手に対する尊敬を心がけることが急務である。評者も当初は過信と軽蔑をいだく人間の一人であったが、本書を読むことで①謙虚さと②尊敬の念を取り戻した。仏教側からキリスト教の長所を謙虚に認め、尊敬して深めたのがテイク・ナット・ハン師である(「生けるブツダ、生けるキリスト」)。キリスト教側のティムと仏教側のテイクは、ちょうど逆方向から相手の元へと出向くことで無償の慈愛の交流点に参入する仕儀を実現した。集約点としてのアガペーへ。『福音の喜び』のなかで、しきりに「相手の元へと出向くこと」を勧める教皇フランシスコも同様である。

ティムが提唱するキリスト教的なマインドフルネスの基

本的な瞑想は三つある。「注意の集中エクササイズ」、「気づきのエクササイズ」、「思いやりのエクササイズ」。彼は仏教の瞑想の極意と呼応するキリスト教信仰の核心が聖書の根底に潜むことに気づいた。つまり「我に返る」放蕩息子の目覚め、マルタとマリアの逸話から導き出せる「すること」から「あること」への洗練、洗礼者ヨハネの渾身の生き方などである。相手を支えてキリストの姿を実現させるべく日々格闘する柳田師は「無償で無条件の愛を体現するイエスのアガペー」と「仏教の瞑想における今ここを価値判断なく気づくこと」との関連性に気づいた。その洞察は伊藤由里の協力を得て本書を訳すことで、さらに洗練された。

(あべ・なかもろ 神学者、日本カトリック神学会理事)

(四六判・二三三頁・本体二〇〇〇円+税・教文館)



教文館の本

好評発売中



世界が絶賛！ 巨匠手塚の遺作アニメ  
手塚治虫の旧約聖書物語

豪華9枚組コンプリートDVD BOX + 公式スペシャルガイドブック

天地創造からイエスの誕生まで、壮大な聖書の世界を描いた全26話。世界が絶賛した聖書アニメの最高峰が、手塚治虫生誕90周年を記念して待望の復活！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
TEL 03-3561-5549  
呈 / 内容見本、図書目録 ● 価格は税抜

明治期の知られざる  
陰の外交官の活躍

〈評者〉西口 忠



英学者 本田増次郎の生涯  
信仰・博愛と広報外交  
長谷川勝政著

本書の著者・長谷川勝政氏は「本書は本田増次郎という一英学者の伝記である。筆者はこの書で、本田の全生涯を辿ってゆきながら、山県（五十雄）の言う『我国の為に貢献した』が『世にはよく現われては居ない』功績を解明することを試みる」と記している（七頁）。

著者は本田増次郎の兄竹四郎の曾孫に当たる。「あとがき」によると、「一九九九（平成一一）年の夏、岡山商科大学の中村浩路教授が本田の出生地打穴里を調査に訪れたとの情報が発見の親戚から」もたらされ、「中村教授から提供を受けた『英語青年』の追悼記事のコピーを読むと本田の評価はことのほか高く」「当時一流の英学者だったことは明らかであった」「これを機に探求心に火がついた」（四六五頁）。このことをきっかけに、著者は本田の全生涯を二十年にわたって調査を進め、日本英学史学会での発表、

ドリツチ、ペリー、ジュリア・ストラウから英語を学び、本田が洗礼を受けるに至った背景を知る。「第6章 ヘヤー主教」によるとC・M・ウィリアムズ主教の後任W・H・ヘアー主教の秘書兼通訳となり、立教女学校の改革に立ち会った。「第8章 高等英学校」では嘉納治五郎が五高校長から文部省参事官への転出に伴う本田の立場の変化と退職、日本聖公会の宣教状況を論じ、高等英学校改革の理念を示す。「第14章 人生の岐路」では弗蠟館設立とさまざまな事件、女子英学塾ほかの英語講師としての働き、多くの著作物の出版、妻の逝去と本田自身も余命一〇年の宣告を受けたことが紹介される。「第31章 永遠なるもの」では孤独の中でも最後の使命を果たすべく懸命に生きる本田がそこにいる。本田の教え子であり、高等英学校最初の卒業生に駒井権

『桃山学院年史紀要』への寄稿など、多くの成果を明らかにされ、今回の出版に至った。その努力に敬意を表したい。

本田は高等英学校（現桃山学院高等学校）の副校長であり、一九八七年に刊行された『桃山学院百年史』編纂の時から気になっていた人物であった。私が著者と出会ったのは二〇〇一年八月で、二年後、本田増次郎の郷土である岡山県久米郡中央町（現美咲町）の本家を訪問した。

本書は本田増次郎の全生涯を四つの時代に分けて構成している。第一部「青雲の志（1866-1891）」、第二部「英学者（1891-1905）」、第三部「広報外交（1905-1913）」、第四部「陰の外交官（1913-1925）」である。第一部から第四部は全三三章からなり、興味深い内容が次々と展開されていく。私が特に注目した章を幾つか挙げる。

「第5章 卒業、受洗、破門」では本田がマーサ・オール之助という人物がいる。駒井はジャーナリスト、詩人として英国で活躍した。今年五月に再開されたロンドン漱石記念館に彼の資料も残されているという。本田を高く評価した一人、英国タイムズ社主ノースクリフ卿について本書が手掛かりに調べを進めることで、著者が注目した本田の「陰の外交官」（第28章、第31章）としての知られざる働きと、「無官の外交官」駒井との繋がりがより明らかにされるのではあるまいか。

本田増次郎は多くの研究者を夢中にさせた。この人物の研究から、明治期に海外で活躍した知られざる日本人像が今後さらに明らかにされることを期待したい。

（にしぐち・ただし）桃山学院史料室特別研究員・日本聖公会歴史研究会会長（A5判・四九〇頁・本体四九〇〇円＋税・教文館）

神学ダイジェスト126号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2019年6月発行  
A5判112頁  
定価630円（税込）

特集 女性の叙階  
巻頭言 聖公会における女性聖職  
ビンゲンのヒルテガルトはなぜ女性の司祭叙階を否定したか A トンプソン  
女性の司祭職について J シーデル  
女性と助祭職 G バニ  
女性助祭の復活 小教区の公正なあり方のために P ザガノ  
助祭の霊性 J キッテル  
ジェンダーと霊性 S ペムゼル  
『愛のよろこび』とその背景 G オコリンズ  
『ラウダート・シ』にみる教皇フランシスコの思想 R マルクス

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

## 神の言葉を自由に聞く 幸いへの導き

〈評者〉 門叶国泰



3分間のグッドニュース「詩歌」  
聖書通読のためのやさしい手引き書  
鎌野善三著

鎌野善三牧師の『3分間のグッドニュース「詩歌」』の改訂版がヨベルから発刊されました。この著は五巻本の同書名ものを新改訂2017に基づいて改訂された一巻です。その基となるのは、一九九七年三月から、毎朝三分間テープに吹き込み続けて来られた電話メッセージです。鎌野先生は、出張中でも早朝に起床され、祈り、黙想して毎日必ず更新をなさいました。こうして三年三ヶ月かけて、旧新約聖書六十六巻を読み続けられたのです。本書の特色は、聖書の各一章を、それぞれ三分間に要約して纏めてあることです。しかし著者は、「本書を読むだけならば、三分間で十分ですが、たとい難しくても、まず聖書本文を読んでください。それから本書を読み、一番大切な真理を、自分にあてはめて考え、祈ってください」と勧めています。私は、ローズンゲン（ヘブル語版）を用いて毎朝聖書を

読み続けていますが、マソラ原書を読み終わると必ず「3分間」に目を通すことにしています。例えば、二〇一九年一月二十日のローズンゲンは詩編139編3節「あなたは私が歩くのも伏すのも見守り 私の道のすべてを知り抜いておられます」でした。「見守り」と訳されているヘブル語の原意には「振り落とす」という意味がありますから、原文を読むと「私は振り落とされているのではないか」とのネガティブな思いに支配されがちです。しかし、「3分間」は「裏を見せ、表を見せて散るもみじ」という俳句を聞いたことがあります。私たちは、主イエスの贖いがあるからこそ、偉大な神の前にも赤裸々になつて出て、祈ることができのです」と、励ましの言葉を掛けてくださっています。このような俳句を読むと、ユーモアを交えて講壇から語られる鎌野先生の肉声を聞く思いがします。

また、二〇一九年二月十六日のローズンゲンは、詩編117編1節「すべての国よ、主をたたえよ。すべての民よ、主をほめたたえよ」でした。これを読んで最初に思うことは、「導いてくれる人がいなければ、どうして主をほめたたえることができるだろうか」です。しかし、「3分間」は直ぐに、「この節は救いの空間的広がりを示しています。異邦人の私たちが救われるために、多くの宣教師や伝道師が犠牲を払ってきました。……何と感謝すれば良いのでしょうか」と、「すべての祈りの前に、まず感謝がなければならぬ」ことを教えておられます。日本でも、説教が公権の監視下におかれ、神の言葉を自由に語ることが出来なかった時代があったことを忘れてはなりません。僅か七十数年前の出来事なのです。今私たちは、説教を通して神の

言葉を自由に聞くことが出来る幸いを覚えるのです。「3分間」の改訂版は、「歴史」「詩編」に続き、今後二年をかけて「律法」「預言」「福音」の全五巻が発刊される予定です。多くの人が、鎌野善三先生のメッセージを聞いて励まされ、神の慰めを得ることでしょう。著者の鎌野善三先生は一九四九年生まれ。ICU卒業後に関西聖書神学校、Western Evangelical Seminary、Fuller Theological Seminaryで学びました。その後、日本イエス・キリスト教団池田中央教会牧師、教団委員長、関西聖書神学校校長を歴任されて、現在は西舞鶴教会で喜恵子夫人と共に牧会にあたっておられます。

（とが・くにやす II 日本基督教団富士見町教会員）  
（A5判・二七二頁・本体一六〇〇円＋税・ヨベル）

## 新聞 アーカイブス 全5巻



1946年の創刊号から昭和の終わりまで。激動の時代を記録した超貴重な一級資料を当時のままデジタル化。フリーワード検索など、検索機能も充実。敗戦直後のキリスト教界がありありと甦る。

「時代の先駆を成す紙面、  
鈴木範久（立教大学名誉教授）

### 推薦

戦争が終わって1年も経たない1946年4月、賀川豊彦により『キリスト新聞』が創刊された。特定の教派を超えた本紙の内容は、時代の先駆を成している。記事の中では、とりわけ天皇制と共産主義に対する関心の強さが目をひく。代表的信徒の戦中と戦後の言動の変化をはじめ、現代のキリスト教にとって注意すべき記事があまりにも多い。

価格  
100,000円  
+税/巻  
特設サイト  
はこちら  
<https://www.kirishin-arch.com/>



キリスト新聞社 since 1946  
〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1  
TEL. 03-5579-2432  
E-Mail. support@kirishin.com

# 「ひろがり」、「ひろがり」、そして「ふかまり」

〈評者〉 大坂太郎



失われた歴史から  
創造からバベルまで  
水草修治著

「カレイドスコープ(万華鏡)だな、これは。」読後すぐ脳中に浮かび上がってきた感想だ。若き日に哲学を学び、キリストに出会い、地方での開拓伝道に真摯に取り組みつつ、神学教育に携わってきた一牧師が「創世記の一章から十一章に現れる諸々の話題を取り上げて、聖書全体の教えを鳥瞰しつつ、現代に生きる私たちに對する主のみこころ(＝神の計画の全体)を読み取ろうとする(四頁)」挑戦の結実、それが本書である。以下その特徴を三つほど挙げてみたい。

まずは「まじわり」。著者は最初の二章において聖書の神観である唯一神論と三位一体論について考察しているが、創世記1・26の「われわれ」と言う言葉をやすがにして神が一人の神でありながら複数の人格を持つことを教父たちのことば、更には新約聖書における記事をひいて展開する。この上なくオーセンティックな展開であるとも言えるのだ

が、その三位格を結ぶ愛についての言及がなされ、更には読者たちに隣人愛において具現化される信仰を持つように励ましている。この聖書の神と私たちの生き方をシンクロさせようという意志は本著、いや著者自身の信仰の屋台骨だなと感じさせられた。

第二に挙げられるのは「ひろがり」である。「神のご計画の全体」をこの小著に収めるといえるのは正直容易ならざることなのだが、それを飄々と(ー)やっつてのける著者には脱帽である。三章の「時と人間」においては時という大命題に取り組みつつ、私たちの生の問題や伝道の原理についての確かなコメントがつけられ、続く四章「神のかたちと三重職」では人間論、聖化論、漸進的啓示、釈義や解釈論といった領域まで渉獵する。しかしこの広がりには決して無節操な拡散ではなく、冒頭にあげた万華鏡の中にある図柄

のように実によく構成されている。前述した創世記1・26における「われわれ」の用語がヘブライ語文法でいう「尊厳を現す複数表現」であるということも指摘しつつも、聖書釈義の要諦が単に聖書記者の当初の意図を探るにとどまらず、聖霊の意図に到達する必要を述べているところ(四六頁)などはその一典型であろう。

第三に本著が「ふかまり」のある著作であることも忘れてはならない。五章の「二つの創造記事」においては巷間言われる「キリスト教＝環境破壊の元凶」という主張に対して有効な弁証を行い、その元凶は特定の宗教によるのではなく、度を越した欲望から来ると結論付けている。これに限らず著者は真理の擁護者としてキリスト教信仰を弁証しているのだが、他方で悪魔の起源については聖書の記事と

その解釈の歴史を概観するに止めている。これを「逃げ」と評すべきではない。むしろ「わからないところは、わからないままに」という円熟した知恵の故と考えるべきである。早朝のオフィスで本小文を書いていたら、ふつと若き日のことを思い起こした。組織神学を講じていた恩師が何かの折に「君たちが『学者的な牧師(Scholar-Pastor)』になってくれることを切に願う」と言っていたことだ。著者、水草修治牧師はその一つの具現化である。不思議な神の配剤により、同じ街、隣の教会に模範となる良い牧者が与えられ、ひろがり深まる交わりを頂いていることを喜びたい。教会内で学び、信仰の足腰を鍛えるにもよい。(おおさかたろう・アッセンブリー・山手町教会(北海道苫小牧市)牧師授)

(新書判・二三四頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル)

**ヨベルの新刊案内**

第三回読完教育賞受賞し  
た著者が終活にまとめた

**福田節子「著」**

50年以上前からあった  
「心のノート」

子どもたちと教師の記録

特許庁に商標登録された「心のノート」  
が50年のときを経て、今よみがえる！  
子どもたちが「思ったこと」「感じたこ  
と」「考えたこと」をそのまま表現してい  
る言葉の一つ一つが今もここに！

\* 四六判・三七六頁・一八〇〇円

---

メアリー・C・ニール 三ツ本武仁訳

**天国からの帰還**

ある医師の死、天国、天使、  
そして生還をめぐる驚くべき証言

「臨死体験」の体験記。  
再び生へと連れ戻された  
た著者が経験したも  
とは、信仰の文脈で語ら  
れた希少な証言、待望の  
邦訳！ \* 一五〇〇円

---

ジョン・マッカーサー 山口衣子訳

聖書に登場する12人の非凡な女性たち

聖書の女性たちはどの  
ように形づくられたか、  
神はあなたに何をそ  
まれているか

プレゼントに最適！  
A5判変型・320頁・  
2,500円

---

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

# 遠藤研究史に新たな頁を刻む 記念碑的労作

〈評者〉古橋昌尚



## 遠藤周作と探偵小説

痕跡と追跡の文学著者

金 承哲（キム・スンチョル）著

著者は南山大学人文学部教授で、南山宗教文化研究所所長を務め、韓国と日本で遠藤周作文学の批評と作品翻訳を出版し、遠藤の読書会を主宰するなど幅広い活動を展開する。本書の趣旨は、遠藤周作の文学を探偵小説との関係から読み直し、遠藤の文学世界を解明することである。この目的に沿って全編が構成される。遠藤がマドールのG・グリーン論に刺激を受け、自らの小説に探偵小説の技法を採用する方向性を与えるに至る経緯に始まり、日記を頼りに、いかに遠藤がフランス留学中に探偵小説を読み漁り、その興味がグリーン作品を通して発展していったかを跡づける。

この研究は遠藤の文学を、謎の提示、痕跡と追跡、どんでん返しなど探偵物語の構造パターンから読む方法を提示し、それを『沈黙』『深い河』『死海のほとり』『侍』などの作品で実践して見せる。遠藤が堀田善衛から知らされた

「追われる者と追う者」という緊張関係、即ちスリラー・パターンが、遠藤の作品群を司る根本的な構造であるとす。また遠藤の痕跡の意味づけとそれをを用いた創作論の根拠は、ロカールの痕跡論・法則にあると特定し、あらゆる文献を渉猟して裏づける。

探偵と容疑者の構図を、遠藤の小説における「痕跡と追跡」の物語パターンに重ね、神と人間との関係という宗教的次元、また信仰の省察という神学的次元を指し示すことで、文学と神学というテーマが示唆される。これによって、カトリック教会の神秘、象徴、痕跡、秘蹟などの事象も自らの物語構成に活かすことができる。しかもこうした探偵小説の枠組みと技法は、遠藤の主題と別れがたくつながらっており、むしろ主題から帰結された方法であるという。(神のミステイク)を痕跡のなかに見つけ、追跡し、また逆

に見つけられるという信仰のアナロジアにむすびつけながら、キリスト作家としての意義を確認している。

本書は探偵小説の作法から遠藤の文学とその世界を読み解くという一つの観点を設け、その手続きを見事に実践しているという点で、遠藤周作研究史に新たな頁を刻むこととなった記念碑的な研究である。本書は遠藤自身がその背景とする欧州の思想、宗教、哲学、神学、文化の観点から遠藤文学に接近しており、遠藤の文学世界を理解し読み解くには、こうした観点が必要であることを物語っている。遠藤が二十世紀の文学、思想、宗教、哲学、文化が交差する貯水池となっているゆえに、今後国際的な研究体制が欠かせないとする提言も現実にも即したものに響く。

今後ここから更に遠藤の比較文学、探偵小説、比較宗教、

神学、哲学の観点から研究に刺激を与えてゆくであろう。遠藤の文学には未だに隠れた秘密や仕掛けが沢山あり、それを解くヒントは遠藤の人生体験の他に、読書記録に表れる芸術体験のうちに隠されている。著者がトーマス・マンの遠藤への影響について論考を試みた好例に見る通り、他にも比較研究等の研究をはじめとした課題が無数に残されている。

遠藤の文学作品が著者の「心を驚つかみ」にするほどの興味は「キリスト教信仰の土着化という解釈学的な関心から生まれたもの」で、それが神学研究の動機でもあったという。また、両者の間で互いの興味と関心に響きあうものがあるとするれば、一つにはユーモアのセンスであろう。(ふるはし・まさなお 清泉女学院大学人間学部長、文化学科教授)

(A5判・三五九+4頁、本体三二〇〇円+税・教文館)



# キリスト教書総目録 2019年版

心がよるえる本との出会い 巻頭メッセージ 柳美里氏 水島治郎氏

## 内容

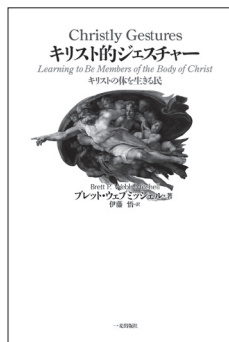
総記 年鑑 辞(事)典 図説年表 / 全集(著作集) 叢書講座 / 聖書学 / 神学 / 宗教哲学 思想倫理 / 伝記 / フラタシオン / 信仰入門書 人生論 説教集 / 文学小説 評論 / 詩劇 / 音楽 美術 建築 / 教育保育 心理 社会福祉 / 児童 絵本 / 讃美歌 式文 / DVD CD カセット / テレオ / キリスト教関連雑誌新聞 書名索引 / 著者索引 / 掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒価1冊286円+税 送品手数料200円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会  
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

体をもって信じる  
体をもって伝える

〈評者〉小泉 健



キリスト的ジェスチャー  
キリストの体を生きたる民  
ブレット・ウェブミッシェル著  
伊藤 悟訳

「キリスト的ジェスチャー」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。両手を組み合わせ、ひざまずくことや聖餐のパンと杯を厳かに受け取ることででしょうか。十字を切るのほそれらしいけれど、自分には身近でないと思うでしょうか。両手を高く上げて賛美する姿を考えるかもしれません。それらも、なるほどキリスト的ジェスチャーの一部です。しかし、本書が考えている「ジェスチャー」はそれらよりもずっと広いものです。

「ジェスチャー」とは、体が行う仕草のことです。そしてその仕草はしばしば思いや感情の表現ともなります。意図して行うジェスチャーも意図しないで行ってしまったジェスチャーもです。わたしたちの表情、身振り、体の姿勢とから、人との接し方、ふるまい方、そして具体的な行為に至るまで、すべてがジェスチャーに含まれます。さらには

語ることさえもです。語ることとジェスチャーは分かちがたく結びついていて、一体的に働くからです。そうなる、わたしたちが発するありとあらゆるものがジェスチャーなのだということになりましょう。

ジェスチャーをこのように広く捉えた上で、こう語られています。「ジェスチャーは、身体と心がどのように連携して一つになっているのかを可視的な形で表すものであり、視覚的にも、運動感覚的にも、そして知的にも、私たちがこの世界において神との関係の中で生きていることを豊かに示すものです」(一二九頁)。

キリスト者らしいジェスチャーがあります。ご注意ください。本書のタイトルは「キリスト教的 christian」と言わずに「キリスト的 christy」と言っています。「キリスト的」というのは、「キリストの体としての」と言い換えてもい

いのです。キリストの体の部分としてのジェスチャーがある。わたしたちが(とくにプロテスタントの者たちが)ほとんど注意を向けないでいてしまっている、信仰の身体性の問題が正面から取り上げられているのです。


本書は三部から成り立っています。「第一部 キリストの体」では、教会が「キリストの体」であり、キリスト者とその部分であることの意味、そしてキリストの体が働くための霊的な賜物の意味が、聖書から、そして神学者たちの考察からいねいに語られます。

「第二部 キリスト的ジェスチャー」はすでに述べたように「ジェスチャー」の意味を大幅に広げた上で、旧新約聖書に見られるジェスチャーを取り出していき、また神学者たちがジェスチャーの意味や力をどのように捉えていたか

を紹介します。

そして「第三部 キリスト的ジェスチャーの実際」に至ります。本書の「序章」に示されているように、本書の大きな意図はキリスト教育を捉え直すことにあります。知的な教授一辺倒になってしまいう現状に抗して、キリストの体のジェスチャーを示し、伝えることによる教育がここで提示されます(気の短い人は、第三部から読んでもよいと思います)。ここを読むとき、「教育」についての理解がますます新しくなってしまうことでしょう。そして、教育への勇氣と希望を与えられ、たくさんの方々の具体的なヒントを見出すこととなります。

(こいずみ・けん||東京神学大学教授)  
(A4判・三四四頁・本体三四〇〇円+税・一麦出版社)



# 終末論

〈改革派教義学〉第7巻


牧田吉和  
Yoshikazu Makita

Reformed Dogmatics  
改革派教義学  
7

終末論  
牧田吉和

神中心的包括的終末論を問う。  
すべての神学的課題は  
終末論へと流れ込む。  
終末論において  
その神学の本質が姿を現す。  
改革派神学は神中心的包括的  
終末論を問うのである。

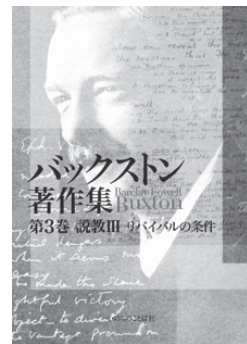
A5判・上製・函入  
定価 [本体4,500+税] 円  
ISBN978-4-86325-052-9



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 近代敬虔主義の良質な表現

〈評者〉 広谷和文



バックストン著作集 第3巻  
 説教Ⅲ リバイバルの条件  
 B・F・バックストン著  
 バックストン著作集編集委員会編

いのちのことは社から昨年刊行された『バックストン著作集』第3巻「説教Ⅲ」を読んだ。バックストンの著作を読むのは初めてである。講話と言った方が良いような長い説教五編と短いもの（と言ってもかなりの長さである）が三篇収録されている。いずれも分かり易く面白いものが多かったが、特に興味深かったのは、冒頭に置かれている『リバイバルの条件』である。私は、「リバイバル」に縁遠い人間なので、怖いもの見たさのようなものがあつたのかもしれない。

そんな私にも、もう五十五年前のこと、室蘭で行われた「福音クルセード」に三日も通った記憶がある。迫力満点のメッセージは結構面白かったが、決心者を募る段での押しつけがましさに辟易し、あのような大伝道集会には近づかないことにしたのである。「リバイバル」という言葉が

れが「リバイバル」であるなら、それはペトロにとつても、私たちにとつても必要なことだろう。その火は、バックストンが言うように「とりなしの祈り」によつて、み言葉とサクラメントによつて出来事として燃え上がる。その炎の点火の主体があくまでも神ご自身であることを忘れてはならない。とするなら、バックストンが、聖書や多くの例話を通して語っている祈りとリバイバルの因果応報的な説明など余計なことだ。私は、「リバイバル」があるとするなら、それは日々刻々、命が贈り物として与えられている現実の生き生きと目覚めることであると思う。それは、あくまでも非陶酔的な現実のはずだ。

この第3巻を通読して不思議に思ったことを一つ記しておきたい。バックストンは、CMS（イングランド教会の福音的な宣教グループ）の宣教師であつた。CMSの創始者の一人ウィリアム・ウイルバーフォースは、奴隷制度の全廃に生涯を捧げた人である。その同志がバックストンの祖父トーマス・バックストンであつた。彼らにとつて社会的な実践と福音の宣教は一体のものであつたのである。

大規模な伝道集会や集団的な陶酔状態を意味し、あるいは信徒獲得を誇るようなものであるなら、それに私が共鳴することはおそらくないだろう。しかし、こう考えてみたらどうだろうか。私たちは、福音に出会い、一度イエス・キリストを受け容れても、日常性の魔力によつて、その信仰がマンネリ化し、やせ細ってくることもある。ちょうどヨハネ福音書21章に登場するペトロのように。ガリラヤに戻り、再び漁師として生きるペトロの「わたしは漁に行く」（ヨハネ21・3）という言葉には、「漁にでも行くか」という物憂げな響きがある。イエスと共にあつた輝かしい日々は過ぎ去つてしまつた。自分は、元通りに漁師として生き、老い、死んでいく。ペトロの心を満たしていたのはそんな思いではなかつたか。この時、彼が必要としていたのは、彼の心に再び熱い信仰の火が点火されることであつた。そ

バックストンとほぼ同時代に日本で活躍したCMSの宣教師たちは、アイヌ民族に生涯を捧げたバチラーにしても、ハンセン病を病む人々と共に生きたリデルやライトにしても、（今日から見て多くの問題が指摘されるとはいえ）、社会的な問題に非常に強い関心を抱く人々であつた。しかし、このように、差別され、蔑まれてきた人々が、バックストンの視野にもしっかりと入つていたのかどうかはよくわからない。ひたすら祈りと聖化の花園を歩む彼の目に富国強兵の道突き進む日本社会の現実がどのように映つていたのだろうか。しかも、彼の活動は、ヨーロッパのキリスト教世界を土台から揺るがした第一次世界大戦をはさんで展開されていたのである。この世界の情勢に対する彼の危機感を少なくともこの第3巻に見つけることは出来なかつた。

ともあれ、近代キリスト教の二大潮流である自由主義と敬虔主義、その後者のきわめて良質な表現をバックストンの著作の中に見出せることは疑いない。

（ひろや・かずふみ 日本聖公会旭川聖マルコ教会牧師）  
 （B6判・四二四頁・本体二五〇円＋税・いのちのことは社）



# 神に向き合い、自分に向き合う 霊的修練の具体的な道

〈評者〉太田和功一



## 主の前に静まる

片岡伸光著  
大嶋重徳・小泉 健解説

長らく品切れになっていた本書がこのたび読みやすい新装丁で復刊されたことを喜んでいきます。新たに、キリスト者学生会（KGG）総主事・大嶋重徳氏の推薦の言葉、東京神学大学教授・小泉健氏の解説「プロテスタントの霊性と本書」、さらに、人生と信仰の旅を著者と共にされた片岡栄子さんのあとがき加わり、日常生活の霊性の大切さと可能性がよりはっきりと読者に伝わってきます。

一三年まえに『スピリチュアリティ 成長への道』（リチャード・J・フォスター著、日本キリスト教団出版局）が出版されて以来、プロテスタントでも霊的修練についての本が次第に出されるようになり、H・ナウエンの著作の多くもプロテスタントの出版社から出されてきました。ちなみに本書の著者は、ナウエンの『放蕩息子の帰郷』（あめんどう）の訳者でもあります。著者は、キリスト教霊性

の中心である神の前に静まることの修練、すなわち、独りになり、沈黙して神に向き合い、自分に向き合う霊的修練の具体的な道を平易な言葉で二〇年以上も前にいち早く提示してくれました。

本書は、著者自身のあとがきにあるように、KGG総主事兼卒業生会主事としての東奔西走の激務の中で、同じように重い責任を負い、多忙の中にある卒業生のために書き下ろした六年間にわたる連載エッセイがもとになっています。一つ一つのテーマは数分間で読める短いものですが、それを毎日の生活の中で実践できるようにするために著者は読者の背中を優しく押し出してくれまます。自分自身も多忙な生活の中でそれらを身につける修練を続けながら、一緒にやりましょうと呼びかけてくれていてからでしょう。霊的修練と聞くと、なにかしんどい課題に取り組まなければ

ならないものと重く感じてしましますが、本書の読後感にはむしろその逆で、ブラザー・ローレンスの『神の現存の体験』（ドン・ホスコ社）を読んだ時と同じような感じで、これなら自分にもできるかもしれないと心が軽くなります。取り上げているテーマは、生活の中のごく日常的なこととて、食べること、寝ること、一息つくこと、静まれる時間と場所を見つけること（著者はこれを移行時と呼んでいます）、ワンセンテンスの祈りをする、夜の床の上で主を思うこと（歴史的には、意識の究明の祈りと呼ばれてきたこと）などを、著者は自分自身の体験を交えながら霊的修練として行う可能性を示してくれます。評者にとって特に興味深く感じたのは、預言者エリヤ

の燃え尽き経験の黙想にもとづく、26「よく眠ること」、27「食事の回復」、28「心を注ぎだす祈り」、29「語りかける神との再会」です。燃え尽きと隣り合わせで生きざるを得ない人が少なくない今、慰めと励ましを与えてくれます。著者は、主の前に静まることを恩師であるスイスのハンズ・ビュルク博士から学んだことを述懐しています。ピュルク氏の著書の中で一つだけ『主の弟子となるための交わり』（いのちのことば社）が邦訳され二〇年前に出版されましたが、これも復刊されることを心待ちにしています。（おおたわ・こういち「クリスチャン・ライフ成長研究会総主事」）  
（四六判・一二八頁・本体二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

1998年にいのちのことば社より  
刊行されたデポジションの名著

## 待望の復刊!



# 主の前に静まる

片岡伸光

大嶋重徳／小泉 健 解説

静けさの中でこそ、人は神に出会い、自分に出会う。34の滋味豊かなエッセイによって、読者を主の前に静まることへと導く。幻の名著に、新たな解説を付して復刊。聖書は新改訳2017・新共同訳を並記する。  
四六判・128頁・1296円

## 説教黙想 アレテイア エレミヤ書

季刊誌『説教黙想 アレテイア』第92～95号に連載された説教黙想の合本。エレミヤ書の概説と重要51単元の丁寧な黙想を通して、聖書の御言葉の真理を導き出す。B5判・320頁・4,320円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp 《価格8%税込》  
<http://bp-ucci.jp>

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fcqwkw524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉県船橋市2-5-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yokohama-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masajama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中瀬町字字巻777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2019年4月～2019年5月)(定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
H. J. 住谷 眞 著 クラウク 訳	E K K 新約聖書 註解 X X III / 2 ヨハネの第二、 第三の手紙	A 5	284	6,000	教文館	4 / 20
大嶋 重徳	若者に届く説教 一礼拝・CS・ ユースキャンプ	A 5	124	1,200	〃	4 / 20
タイム・ステッド著 柳田敏洋、伊藤由里訳	マインドフルネス とキリスト教の霊性 一神のためにス ペースをつくる	四六	232	2,000	〃	4 / 30
關岡 一成	人になれ人、人になせ人 一クリスチャン・サ ムライ海老名弾正	四六	170	1,000	〃	4 / 30
關岡 一成	海老名弾正関係資料	A 5	320	3,200	〃	4 / 30
関口 安義	評伝 矢内原忠雄	A 5	691	8,000	新教出版社	4 / 25
榎本 てる子	愛し、愛される中で 一出会いを生きる神学	A 5	208	1,800	日本キリスト 教団出版局	4 / 25
藤原 孝行	よくわかる聖書に基づ く「クリスチャン生活」	新書	224	1,100	ヨベル	4 / 1
水草 修治	失われた歴史から 一創造からバベルまで	新書	224	1,100	〃	4 / 25
宮村 武夫	宮村武夫著作集3 一真実の神、公同礼拝③ コリント人への 手紙第一「注解」	四六	340	1,800	〃	4 / 30
堀内 昭	聖書の植物よもやま話	A 5	276	1,800	教文館	5 / 30
C.ホウトマン著 片野安久利訳	コンパクト聖書注解 出エジプト記 I	四六	232	3,500	〃	5 / 30
教皇フランシスコ、 ドミニック・ヴォルトン著 戸口民也訳	橋をつくるために 一現代世界の諸問 題をめぐる対話	四六	421	2,600	新教出版社	5 / 1
富坂キリスト 教センター編	協力と抵抗の内面史 一戦時下を生き たキリスト者た ちの研究	四六	274	2,000	〃	5 / 31
片岡伸光著 飯島重徳、 小泉健解説	主の前に静まる	四六	128	1,200	日本キリスト 教団出版局	5 / 25
日本キリスト 教団出版局編	説教黙想アレタイア エレミヤ書	B 5	312	4,000	〃	5 / 24
鎌野 善三	3分間のグッド ニュース「詩歌」 一聖書通読のため のやさしい手引き書	A 5	272	1,600	ヨベル	5 / 20

# 福音と世界

2019年8月号

## 特集

現代のバベルの塔 反オリンピック・反万博

寄稿者 有住航、入江公康、酒井隆史

田中東子、塚原東吉、いちむらみさこ

## 好評連載

バビロンの路上で、Confessions of a Sin of a Preacher Man (トニエール・ヤン)、神の酒(石井光太)、テモテ書(辻学)、福音書記者たちの饗宴(松本あずさ)、遺跡が語る聖書の世界(長谷川修二)、わたしはロックがわからない(山口政隆)、福音の地下水脈(Dyn-PRIDE)ほか

A5判・本体 588円・〒70円  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

## 編集室から

聖書の新翻訳『聖書 聖書協会共同訳』の奉献式で日本基督教団銀座教会に行ったときのこと、ラ・トゥールの描いた「大工の聖ヨセフ」を立体化した作品を見つけて、そのこだわりの完成度に見入ってしまった。当日は多くの方が訪れくださる中、私はエレベーター前で誘導係りをしていった。人の流れがスムーズになるよう送り出した後はすぐにボタンを押して次に備える。しばらく繰り返し返して人の波が途切れた束の間、ぼんやり眺める空の片隅に次第に引き寄せられるものがあった。

少年イエスがろうそくをもって、父ヨセフの大工仕事を見守っている場面。ガラスケースの上には作者の名前があ

## 予告

本のひろば

2019年9月号

## 本・批評と紹介

特集「キリスト教とグリーンフケア」、関口安義著『評伝 矢内原忠雄』、内坂 晃著『歴史から見たキリスト教』、堀内 昭著『聖書の植物よもやま話』、關岡一成著『海老名正閔係資料』他

お詫びと訂正 本誌二〇一九年七月号三頁中段及び五頁書誌情報に記載した『キリストの肖像』(教文館)の著者名「近藤志」は「近藤存志」の誤りでした。お詫びして訂正します。

り寄贈と書かれていた。二次元を三次元にするということはかなり難易度の高い挑戦。正面はもちろんのこと、横、上、後ろにもオリジナルの意図を壊さないようにするため、思いがけない試練に立ちむかわなければならぬ。

感心しながら見ていたら、ヨセフの足元に木屑が落ちていっているのを見つけた。気になって後日オリジナルを確認すると、ろうそくの明かりで照らされている少年イエスを中心に、そこから遠くなるほど薄暗く、木屑が分りにくくなっていた。作者が画家の描画を辿りながら丁寧に形を起こしているのがうかがえる。

新しい聖書は教会で朗読されるとき、言葉が美しく響くよう配慮されているとのこと。きつと、黙読とは違った導きをもたらしてくれるに違いない。(吉崎)

# ヒップホップ・レザレクション

7月25日

山下壮起 (阿倍野教会牧師)

ラップ・ミュージックとキリスト教

今や世界的大衆文化となったヒップホップ。その最初の担い手であったアフリカ系アメリカ人の歴史の社会的背景における宗教的機能を探り、ヒップホップと既存教会との関係や聖俗観・救済観を検討する。気鋭の神学者による注目作。

◆A5変型判・本体3200円

# アモス書講義

改革者は預言者をどう読んだか

ジャン・カルヴァン／関川泰寛 [監修]／堀江知己 [訳と解説]

7月25日

ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行う。創設間もないジュネーブ大学で語られた講義の、ライブ感溢れる記録。

◆A5判・本体5000円

# 夜と霧の明け渡る日に

未公開書簡、草稿、講演

ヴァクトール・フランクル／赤坂桃子訳

大好評

名著成立の秘密!

強制収容所からの解放と帰郷というフランクルの人生で最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、貴重な文書を用いて再構成。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が初めて明確に交差する。

◆四六判・本体2400円



# 協力と抵抗の内面史

歴史への新視点!

富坂キリスト教センター編

戦時下を生きたキリスト者たちの研究

「戦争協力者」か「抵抗者」かといった一面的裁断を排す重層的視点。植民地下の現地のキリスト者にも着目する。教会史への新たな視角。

◆四六判・本体2000円

# 〈グローバル・ヒストリー〉の中のキリスト教

近代アジアの出版メディアとネットワーク形成

反響

ミラ・ゾンターク編

◆A5判・本体5200円

キリスト教史への新たな視角= 〈グローバル・ヒストリー〉!

〈グローバル・ヒストリー〉という概念を手がかりに、大陸をまたぐネットワークと多極構造を反映する新たなキリスト教史の構築を目指す「ミュンヘン学派」。主導するクラウス・コシヨルケ氏ら7名の論者が、近代東アジアにおける活字メディアに着目した意欲的共同研究。

本  
の  
の  
ひ  
ろ  
ば  
一九五七年七月一日発行 第三種郵便物認可  
二〇一九年八月一日発行 毎月一回一日発行  
第七四〇号 二〇一九年八月号



「日本におけるキリスト教のあり方」を求めた2人のドラマ

# 遠藤周作と井上洋治

## 日本に根づく キリスト教を求めた同志 山根道公

約50年、同じ目標に向けて歩み、互いの最もよき理解者であった、遠藤周作と井上洋治。遠藤研究の第一人者であり、井上神父の活動を支えた著者が、2人の言葉や歩みをたどりつつ、その秘められた思いを描き出す。

◆四六判 並製・216頁・2,160円

2019年7月25日刊行予定

好評発売中 井上洋治著作選集 全10巻+別巻 ◆各巻2,700円 山根道公 編・解説

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p>1 日本とイエスの顔</p> <p>2 余白の旅 一思索のあと</p> <p>3 キリストを運んだ男 一パウロの生涯</p> <p>4 わが師イエスの生涯</p> <p>5 遺稿集 「南無アッパ」の祈り</p> | <p>6 人はなぜ生きるか イエスのまなざし 一日本人とキリスト教 抄</p> <p>7 まことの自分を生きる イエスへの旅</p> <p>8 法然 一イエスの面影をしのばせる人 風のなかの想い 一キリスト教の文化内開花の試み 抄</p> | <p>9 南無の心に生きる イエスをめぐる女性たち 抄</p> <p>10 日本人のためのキリスト教入門 井上洋治著作一覧</p> <p>別巻 井上洋治全詩集 (朗読CD付) 一イエスの見た青空が見たい</p> |
|--|---|---|
- ◆各巻 A5判 上製・平均250頁

十字架の光の中で詩編の言葉を聴きたい——  
日本FEBCの好評番組を全2巻で単行本化

# 詩編を読もう 上

## 嘆きは喜びの朝へ 広田叔弘

「嘆き」と「賛美」という相反する要素を含む詩編をどう読むのか。上巻では詩編の前半から精選した詩を取り上げ、キリストを証しする書として読み解く。 ◆四六判 並製・224頁・2,160円

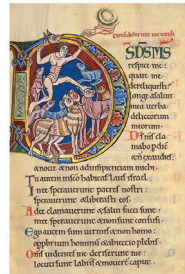
下巻  
刊行予定

詩編を読もう 下巻 ひとすじの心を  
2019年8月23日刊行予定

詩編を読もう

嘆きは喜びの朝へ

広田叔弘



2019年7月24日刊行予定

定価七八円(税抜七二円) 762円  
一年分一三〇〇円(送料共)